



## 感染予防に取り組みます ～できることは続けよう～

先週から学校が再開し、時間割にそって授業が行われました。新しい時間割での一週間通しての学校生活に慣れていないこともあり、授業の順を覚えていない生徒が若干見られました。学校給食の提供も始まりました。

高知県では 30 日以上新型コロナウイルス感染の陽性と判定された人が出ていませんが、外出の機会は確実に増え、『3密』となる場面が多く見られるようになりました。県外では、「第2波」と思われる多数の感染者の報告がされています。

学校では、6月も「ホーム主任への体温と体調の報告」、「教室に入る前の消毒または手洗い」、「校内ではマスクの着用」、「間隔を取って座る」、「教室の換気をする」、といった予防策を引き続き行っています。



市中の量販店には、マスクや消毒用アルコールが並ぶようになり、品切れを気にすることなく感染への予防ができます。臆病になり過ぎず、もう大丈夫と過信せず、日々の生活を送りましょう。

## 備えあれば憂いなし ～地震避難訓練・防災学習～

5月29日(金)の総合・LHでは、今年度最初の避難訓練と防災学習を行いました。はじめに、震度7の地震が起こったとの想定で、避難訓練を行いました。1年生にとっては高校生活で初めての夜間での避難訓練となりました。

教室では、担任の先生が人数確認をした後、訓練について説明しました。その後放送で、訓練をおこなうにあたり、4点の注意事項、①南海トラフ地震で予想される「最

大震度 7 の揺れ」、②在校時に地震が発生した場合に注意すべき点、③揺れが収まっても慌てて移動することが危険な理由、④避難する際に「オハシモ」に留意する、が説明されました。オハシモとは、オ：押さない、ハ：走らない（かけない）、シ：しゃべらない、モ：もどらない、のことです。

おさない



かけない



しゃべらない



もどらない



説明後に緊急地震速報と地震を模擬音が流れ、教室の生徒・教員は机の下にもぐり足をしっかり押さえて身を守るはずでしたが、何らかのトラブルで音が流れなかったため、身を守ることができたとして避難を始めました。避難時には照明を消し、非常灯が点灯する校舎内を、



**HOLD ON**

担任の先生が先導して避難場所である視聴覚室に進みました。生徒・教職員の全員が無事に避難できたことを確認した後、校長先生から講評をいただきました。

避難訓練の後は、NHK で放送された南海トラフ地震に関する番組「“最悪の 24 時間”を生きのびろ」を視聴しました。番組を見る前に振り返りシートを配り、「番組を見ながら印象に残る言葉を書き留めておく」よう話しました。生徒が書き留めた言葉の一部を紹介します。



「液状化」、「揺れとのたたかい」、「津波の挟み撃ち」、「自助 自分で自分の命を守る」、「預かり備蓄」、「民間の力を活用」、「津波火災」、「患者のラッシュ」、「1 分で家から出る」、「長期浸水」、「家具の固定（ダンボールでも可能）」、「固定されていない物は動く」、「高知県の停電率 100%」、「公的な支援への“つなぎ役”」

番組の最後に、「地震に対する備えをしていれば、予想される犠牲者を 93% 減らすことができる。」と伝えられました。今回の訓練と学習から、考えるだけ終わらずに家族を含めた周囲の人と共に南海トラフ地震への備えのため行動することに期待します。

1 年生が振り返りシートに書いた感想の幾つかを紹介します。

- ・南海トラフ地震は自分が生きているうちに起こりえることを考えさせられました。自分の身に起こりえるので、防災に関して改めて考えました。正しい訓練で被害者が減らせることがわかりました。避難訓練は大事だと思いました。
- ・自分が考えていたより南海トラフ地震がすごく怖いことがわかった。家に帰って親ともう一度話し合おうと思った。液状化ということを知ったのでインターネットを使って調べてみようと思った。
- ・番組を見るまでは、「まだ地震は来ない、自分は大丈夫」と思っていたけど、番組を見て身近に感じる事ができた。
- ・公助、共助、自助が互いに関係して助け合うことが大切なんだと改めて思いました。
- ・一人一人が南海トラフ地震を意識し続けることが大事だと思う。